

『武道ツーリズム』とは

スポーツ庁では、スポーツの参加や観戦を目的として地域を訪れたり、地域資源とスポーツが融合した観光を楽しむ「スポーツツーリズム」を推進しており、2018年度より、世界の関心が高い日本発祥の「武道」を活かした、希少性の高い『武道ツーリズム』を提唱し、2020年3月に「武道ツーリズム推進方針」を発表しました。

この推進方針では、目指すべき姿として「武道が日本発祥であることの国際的認知（プレゼンス）の向上」、「武道によるインバウンド誘客の促進と地域活性化」、「武道体験を通じたファン層等の拡大による日本の精神・文化の国内外への普及・発信」の3つを掲げております。



スポーツ庁長官 室伏 広治

武道は、スポーツとしての側面を持ちながら、我が国固有の伝統文化・精神文化として、人間形成や郷土愛醸成に影響を与え、礼儀や和を重んじる日本人を育ててきました。こうした武道の精神は海外からも高く評価され、今や世界中に1億人を超える武道愛好者がいると言われています。

スポーツ庁では、日本の貴重な財産としての武道の価値を、まちづくり・地域活性化に活かしていくため、「武道ツーリズム」という新たな取組を始めています。

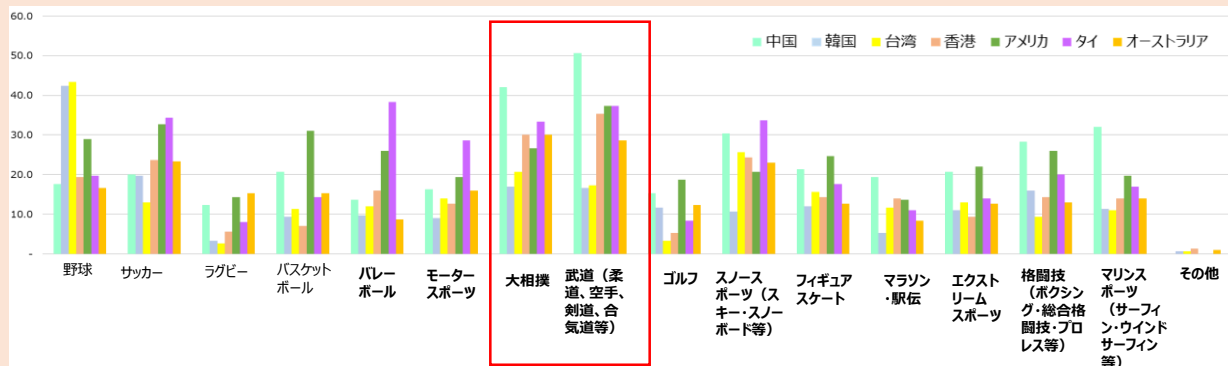
しかしこの取組は、武道関係者をはじめ、自治体・スポーツ・商工・観光等の多くの関係者の協力無くして進めることは出来ません。

本調査で収集した基礎的な施設情報を基に、様々な武道ツーリズム施策を進めてまいりたいと考えておりますので、皆さまのご理解・ご協力をどうぞ宜しくお願いいたします。

【武道ツーリズムの可能性】 → 各種アンケート調査からも、世界各国からの強い期待・関心が伺えます

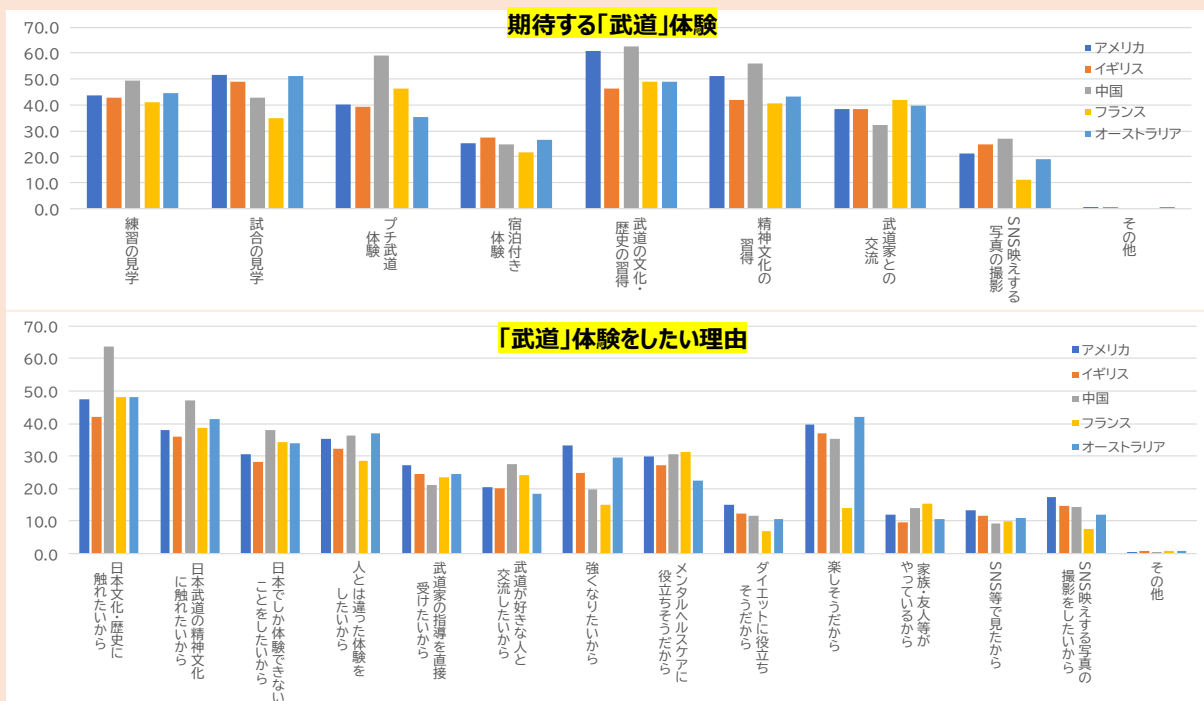
● 日本で経験してみたい「みる」スポーツツーリズム（2017年度：海外7か国調査）

→ 他のスポーツと比較しても武道・大相撲のスコアが高い。



● 期待する「武道」体験の内容／日本で武道体験を理由（2019年度：海外5か国調査）

→ (期待する内容) 「武道の文化・歴史や、精神文化の習得」が高く、「試合や練習の見学」、「簡易体験」等がこれに次ぐ。
(したい理由) 「日本文化・武道の精神文化に触れたい」が高く、日本ならではの希少性や、「楽しそう」等も多い。



◆各地における展開事例

①SAMURAI KYUSHU（剣道・居合道等）

日本航空（株）と（一社）九州観光推進機構等が自治体や関係機関と連携し、九州各地に多く残る伝統的な武士道文化と武道体験や城泊等の地域資源を融合させた取組です。

付加価値の高いコンテンツを「SAMURAI KYUSHU」のブランドで統一し、有機的に連携・活用することで相乗効果を創出し、訪日需要の喚起による地域活性化に資することを目指しています。



師範に直々に教わる居合道体験



秋月での光月流太鼓体験



武道場での剣道体験



キャスルステイができる平戸城

②空手ツーリズム（沖縄空手）

特設サイト：<https://karate.ocvb.or.jp/jp/>

例① 沖縄空手 4 流派体験

道場で行われる夜の通常稽古だけではなく、沖縄空手 4 流派体験や朝稽古など、多様な形式の稽古メニューを整備。



剛柔流



上地流



小林流



古武道

世界に誇る文化としての空手の価値を発展させ、スポーツツーリズムとしても沖縄と空手が更に世界で認知、浸透されるよう取組を進めています。

■ 2020年度目標
旅行商品10造成
取扱い事業者10開拓

©Ageshio Japan

例② 空手聖地巡礼ツアー

空手稽古以外に楽しめる空手観光メニューを整備。
聖地巡礼ツアーは空手発祥の沖縄だからこそ体験できるサービス。



剛柔流開祖の記念碑



松濤館開祖の記念碑



松濤館開祖の練習跡地
※松濤會との連いを明確化する



空手博物館

この他にも、各地で武道ツーリズムコンテンツの検討・開発が進められており、スポーツ庁では様々な支援施策を展開しています。本調査の結果もこうした取組に活用し、更なる武道の普及・発信や新しい価値の創出してまいります。

武道ツーリズム推進方針
(令和2年3月31日公表)



武道ツーリズム プロモーション映像
～「BUDO Tourism Japan -
The Spirits of BUDO」～

